

玉川砦跡(比企郡ときがわ町)

前方は春日神社/この右手を進むと龍福寺があり、これらの手前一带が玉川砦跡という





振り返った一帯はこんな風景



お約束の再利用材置き場



角度を変えて春日神社手前の一帯を見る



この一帯が玉川砦の領域であったという



右手に先程の再利用材置き場が見える/その更に右手は雀川となり、自然の水堀としての機能を持っていたという



更に角度を変えて遠方から正面に先程の再利用材置き場、その右手に春日神社を見る



春日神社の更に右手の龍福寺の墓地方向を見る



右端が修復中の龍福寺本堂であり、その手前であるこの一帯も玉川砦の領域であったという



左手に修復中の本堂の屋根が見え、更に右手の風景を見たところ



さて、春日神社を見てみよう/南北朝の時代に、字堀の内に館を構え、龍福寺を建立した藤原盛吉が奈良の春日明神を勧請したと記されている

春日神社御由緒

御祭神 武甕槌命 天児屋根命 経津主命 迦具土命

伊弉冉尊 速玉男命 事解男命

当社の創立は、第九十七代後村上天皇の正平二年(北朝光明天皇の貞和三年(西暦一三二四)、字堀の内に館を構え、龍福寺を建立した藤原盛吉が、奈良の春日明神を勧請したと伝之、慈眼寺の開基玉川郷御陣屋の先祖寿昌院が社殿を建立し、江戸時代慶安二年(一六五九)徳川幕府より社領五石一斗の朱印を賜った。元禄五年(一六九三)、江戸神田明神式年遷宮の際、その日本殿の用枝を拝載して社殿を修建し明治四十五年(一九〇二)字細山の愛宕社、字地家の熊野社を合祀した。代々慈眼寺が別当として之を管掌したが明治初年の神佛分離の政令により今日に至り、また大正五年(一九一六)神饌幣帛指定村社に指定された。

本殿は、間口奥行各一間(ハイト)と流水造り柿葺向拝付、拝殿は、間口三間(至西ノト)と奥行二間半(至東ノト)と切妻造り、これらの上覆は、間口三間半(至西ノト)と奥行六間(至東ノト)と切妻造り瓦葺向拝付である。

当社は古来武神として武門の崇敬厚く、戦捷、出征将兵の祈願所として栄え尚武の神事として、毎年十月初九日古式流鎬馬の神賑行事を執行したが、日露戦争の頃馬不足のため休止し、その後これに替えて地方競馬を奉行したが、昭和十年以降休止した。

第二次世界大戦後四十有余年を経て、近時漸く社殿の老朽神域の荒廢が目立つに至ったので、氏子相議り、春日神社社殿等改修実施委員会を結成してその整備を計ることとし、村内外の有志に資金の寄進を呼びかけ、幸い全員の賛同を得てここにその目的を達成することが出来た。

時あたかも平成元年、玉川村制施行百年に当り、この事業を記念して当社の御由緒を録し、併せて淨財を寄進された人々の氏名を刻して、いよいよ御神徳を敬仰するところにも、その芳志を後世に伝えるために、この碑を建立するのである。

平成元年十月 穀旦

社殿がある



この左手の階段を登ると本殿があるらしい



右下から眺める








説明板がある



玉川村里山文化園

自然をたいせつにしましょう。

-  玉川村里山文化園
-  洋梨林
-  遺標
-  一般路
-  遊歩道



- 文化財
- 春日神社の社 [県指定ふるさとの森]
 - 本道阿弥陀如来像 [龍福寺・村指定有形文化財]
 - 護沙門天頭部 ["]
 - 伝曾我兄弟供養塔 ["]
 - リンボク [龍福寺・村指定天然記念物]
 - 玉川陣屋跡

玉川・里山もりんど

春日神社から龍福寺にかけての右手一帯が玉川砦跡とされる/玉川陣屋跡の記載もある



玉川村春日神社ふるさとの森

平成三年三月二十九日指定

身近な緑が姿を消しつつあるなかで、貴重な緑を私たちの手で守り、次代に伝えよう。この社叢が「ふるさとの森」に指定されました。この森は、玉川村の中心地域にある春日山の南麓斜面上に広がり、鎮守の森として永く人々に親しまれてきました。多くの樹木が冬でも緑の葉をつける照葉樹林で、高くそびえるモミの木と、豊かな枝葉を具えたスダジイアラカシ、タブノキの大樹が風格のある森を形作り、その中にはヤブツバキ、サカキ、モチノキ等が多数生育しています。私たちの先祖が遠い昔からあがめ、大切に守ってきた自然の森、ふるさと玉川を代表する森です。

平成四年三月

埼玉県・玉川村



春日神社の付近から先程の玉川砦跡とされる一帯を見る





さて、龍福寺方向へ進んでみる





石造物もある



鐘楼と説明板がある



県指定有形文化財

木造 阿弥陀如来坐像

平成十三年三月十六日指定(埼玉県)



龍福寺 木造 阿弥陀如来坐像

龍福寺阿
弥陀堂に伝
わる本尊仏
で様式から
鎌倉時代前
半の十二世
紀末〜十三
世紀初頭(約
八〇〇年前)

の制作と考えられます。像の高さは一〇八センチメートルで等身大よりやや大きく、カヤ材による頭部割はぎ胴部寄木造りとなっており、像内に残された記録により貞和三年(一三四七)をはじめ三度以上の修理が行われていることが分かっています。平成九年には大掛かりな解体修理が実施され鎌倉彫刻特有のたくましい造形表現を取り戻しました。



像内墨書修理銘

大豆郡	妙善妙賢
僧宗印	平類宗
佛子	勝性勝来祐
十方	且那
貞和三年	二月十五日

平成二十年三月 ときがわ町教育委員会

左手にあった石造物



これが本堂であるが修復中であった



左脇の石造物



少し遠景から右手に本堂の屋根を見る



さまざまな石造物がある



参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/138tamagawa/tamagawa.html>

http://gi001.gokenin.com/tanbou/11_saitama/03_hiki/008_tamagawa/tamagawa.html

<http://ckk12850.exblog.jp/4171964/>

<http://blogs.yahoo.co.jp/miyahamakisa/43717640.html>

<http://midokoro.web.fc2.com/kankou/kasugajinja/kasugasama.html>

http://www.town.tokigawa.lg.jp/forms/info/info.aspx?info_id=11962

